

授業概要

人は動物や植物などの生き物、自然、暮らしの中で育まれてきた歌や遊び、料理、絵や工芸などの文化や人の感性を呼び起こす芸術に触れることで心や生活が豊かになります。五感が刺激されて感じ、いろいろなことに気づき、わかり、できるようになることは、人間にとって最も基本的なことであり、とりわけ短期間に多くのことを吸収し、非認知能力を育てていく乳児期、幼児期では重要です。

この授業では、①知ること、②考えること、③感じることを実践します。豊かな感性を育む情操教育の意味や背景、ESD・SDGsなど持続可能な社会づくりを念頭に置く子どもの情操教育について理解し、現状の問題点やこれからどうすべきかを考え、自ら体験し感じることを柱として、授業を進めます。体験は、A「わらべうた遊び」(全体)、B情操・感性に関する本の調査(個人)、C「情操・感性フィールドワーク」(情操教育の現場の参観、自然体験、美術館見学、コンサート鑑賞等々の取材や体験、個人)を行います。

授業計画

第 1 回	重要なキーワード、授業の目標と計画、学びとは、調べて発表することの意味、参考資料
第 2 回	情操教育とは、情操教育の歴史、感性を育むとは、〈わらべうたを体験する〉
第 3 回	子どもの早期教育、情操教育の転換、非認知能力、ESD・SDGsとは、〈わらべうたを知る〉
第 4 回	年中行事との関わり、遊びとの関わり、〈わらべうたを探る〉
第 5 回	シュタイナーの教育、モンテッソーリの教育、小林宗作の教育、〈わらべうたで遊ぶ〉
第 6 回	動物や植物などの生き物と感性との関わり、〈わらべうたのレパートリーを増やす〉
第 7 回	絵本やものがたりと感性との関わり、〈わらべうたでつながる〉
第 8 回	自然や四季への気づき、自然体験と感性との関わり、〈わらべうた活動を組み立てる〉
第 9 回	【発表とディスカッション①】情操・感性に関する本の紹介
第 10 回	芸術と感性との関わり①美術、〈わらべうたでリズムや言葉を感じる〉
第 11 回	芸術と感性との関わり②音楽、〈わらべうたで音程を感じる〉
第 12 回	芸術と感性との関わり③舞踊や動き、〈わらべうたで身体の動きを引き出す〉
第 13 回	情操・感性フィールドワークの発表方法、準備
第 14 回	【発表とディスカッション②】情操・感性フィールドワークの発表
第 15 回	学びのまとめ
第 16 回	筆記試験(記述式)

到達目標

①情操教育の意味と背景、歴史について理解し、感性を育む教育や非認知能力など今日的な視点を含めて言葉で説明できる。②「情操・感性に関する本の紹介」のための準備を十分に行い、効果的な発表をすることができる。③「情操・感性フィールドワーク」のための準備を十分に行い、効果的な発表をすることができる。④わらべうたのいろいろな側面を理解し、わらべうたの意義について説明することができる。

履修上の注意

本授業では【発表とディスカッション①】として情操・感性に関する本の紹介、【発表とディスカッション②】として情操・感性フィールドワークの発表を行います。それぞれ早めに決めて事前調査する必要があります。後者は各自でフィールドワークを行います。学外のイベントや施設等の見学をする場合、必要な費用は自己負担とします。また情操教育の現場の参観などは紹介状が必要な場合があるので、確認のうえ申し出てください。3回の遅刻で1回の欠席とします。

予習・復習

- ①情操・感性に関する本の読書と発表資料の作成
- ②情操・感性フィールドワークに必要な計画の作成
- ③情操・感性フィールドワークの発表用資料の作成

評価方法

筆記試験 50%、発表①15%、発表②15%、授業内提出物 10%、授業参加態度 10%

テキスト

資料配布。